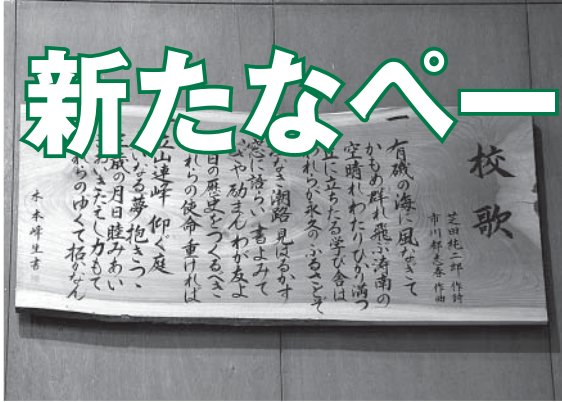


新たなページのはじまり



済南中学校

3月28日、七尾東部中学校の新設に伴う済南中学校と北嶺中学校の閉校式がそれぞれ行われ、生徒や卒業生たちが長年慣れ親しんだ校舎に別れを告げた。両校の開校は、今から52年前の昭和33年のこと。済南中は旧南大吞中と旧北大吞中の一部、北嶺中は旧崎山中と旧北大吞中の一部を統合して誕生した。

済南中学校 閉校式

済南中では、生徒32人と観田教育委員長、武元市長、市議会議員、保護者や卒業生など約100人が出席した。生徒は、済南中学校1年の歩みと題して、海の運動会や宿泊体験などの今年1年間の思い出を、スライドを使って振り返った。また、「旅立ちの日に」と「ふるさと」の2曲を今までお世話になった先生や保護者、卒業生に向けて披露した。出席者全員で歌った最後の校歌斉唱では、涙をこらえて歌う姿が見られた。式典の最後には、生徒から学校長へ、学校長から市教育委員会へと校旗が返納され、その歴史に幕を閉じた。

北嶺中学校 閉校式

北嶺中では、生徒45人と三浦教育長、大林市議会議員、保護者や卒業生など約200人が出席して閉校式

つする、畑下敦美さん

悲しみの式ではなく、

北嶺中学校



④



⑦



⑥



⑤

①全校生徒による合唱 ②⑦出席者全員での校歌斉唱 ③⑥1年の歩みを振り返るスライドショー ④タイムカプセルに手紙を入れる生徒たち ⑤生徒を代表してあいさ

が行われた。畑下敦美さん(当時2年生)は「思い出深い校舎との別れは寂しいですが、七尾東部中学校でこれからもがんばります」と生徒を代表してあいさつした。スライドを使った思い出の場面の上映シーンでは出席者がスクリーンをじっと見つめていた。会場にはタイムカプセルも用意され、生徒たちは将来の自分にあてた手紙などを入れていた。全校生徒での合唱「さよなら」、そして、同校最後の校歌斉唱では涙をぬぐう姿も見られた。

閉校。そして未来へ

「閉校」という言葉を聞き、誰もが寂しい思いを感じるだろう。地域に根ざし、住民に愛されてきた学校がなくなるといことは、言葉にならないほど深い悲しみがあるに違いない。ただ、子どもの数が増えず、人口減少が進み、過疎化に歯止めがかからない今日において、これから担う子どもたちのための教育環境の整備は、避けては通れない課題だ。これからもこの地に私たちが住み続けるために、何をすべきなのか。「閉校」をきっかけに、考えなければならぬことは少なくないのではないだろうか。

(終わり)